



# 碧南ロータリークラブ週報

第2212回例会 平成16年2月25日(水) 晴.最高15.9℃.最低3.9℃

- 会長 加藤 良邦 ● 幹事 竹中 義雄 ● SAA 杉浦 成人
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100  
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 竹下 豊・新美惣英・鶴田光久・杉浦昌裕

2003~2004年度  
国際ロータリーのテーマ

手を貸そう



Lend a Hand

## ● 齊唱

ロータリーソング「ロータリー賛歌」



## ● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子

## ● 本日のお客様

(財) オイスカ中部日本研修センター 参事	村松 明様
(財) オイスカ	亀山 近幸様

## 会長挨拶

皆様、こんにちは。三寒四温と言いますように、近頃は非常に天候が不順ですので、どうかお身体にご自愛頂きたいと思います。

故鈴木義一宮司様の葬儀が下鴨神社で行われたという報告を娘さんより頂き、「下鴨神社と糺すの森」という本を頂戴しました。事務局でお預かりしていますのでご一読お願いしたいと思います。

先週の金曜日土曜日、総本山の宗議会に出席のため京都へ行きました。今年は花粉症が出ず、調子良く思っていましたが、京都駅のプラットホームに下りた途端、鼻がむずむずし始め、会合の始まる頃には鼻水が垂れ、目がうるうるしてきました。隣の席に座った京都のお寺さんに花粉症だと話すと、「うちの本堂の園は花粉で色が変わっているよ」と言われました。病は気からと言いますが、その一言で、急に花粉症がひどくなってしまったような気がします。

私ども僧侶は葬式や年忌に「立ち会い僧」、「客僧」という形で同業者とご一緒する機会がよくあります。やっとこの年になって、あまり苦にならなくなりましたが、同業者がいるとやりにくいものです。

先代がまだ健在だった頃、先代が我が息子のように可愛がっていた名古屋の方から年忌を勤めたいというお話を頂きました。しかし一週間前になって「法要は中学時代から友達の和尚さんに勤めてもらうので、(先代と私には) ネクタイを締めて来て欲しい。その代わり名古屋のホテルで高級ワインを御馳走します」という案内に変わってしまいました。先代が「衣を着て行くとお布施を貰えるが、ネクタイを絞めて行くとご仏前を出さなければならないから、えらい違いだな」と言っていたことを思い出します。

年忌の当日は私が運転手をし、ちょっと時間遅れで名古屋に到着しました。準備万端、お仏壇を背にしてお参りの方々に大きな声でしゃべってみえた若い和尚さんは、施主の方に「この方は棚

尾の毘沙門さんです」と紹介された途端、急に話を止め、慌てた様子でお勤めを始めました。まつたりと莊厳な雰囲気の中で勤めるべき法要はめちゃくちゃで、バタバタとあっという間に終わってしまいました。平常心を忘れた様子の和尚さんは、急用を思い出したと言い、高級ワインのお誘いをキャンセルして、あたふたと帰って行かれましたが、私はその和尚さんの気持ちがとてもよくわかる僧侶の一人です。

京都のお土産に花粉症を貰ってきたお話と同業者の昔の思い出話でした。ありがとうございました。

## 幹事報告

例会終了後この会場にて45周年のミーティングを開催します。各委員会の委員長さん、実行委員会の皆さんも、ご出席をお願いします。

次週3月3日が例会では、45周年の関係で最終的なミーティングをさせていただきます。その後のスケジュールについて説明を申し上げます。

3月10日 グランドホテルにて12時30分より例会を開催させていただきます。その中で45周年のリハーサルを開催します。

3月17日 慰靈祭です。12時より妙福寺にて慰靈祭を開催します。

3月21日日曜日 45周年の式典です。場所はグランドホテルです。式典は4時から開催されますので、各委員会によって集合時間は違うと思いますが、3時には会員のみなさまは集合をお願いします。それ以前にお集まりいただく場合は、各委員会にお願いします。

3月24日 休会です。

3月31日 インフォーマルミーティング、グランドホテルにて5時30分からです。

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数 76名（内出席免除者 14名）出席者67名	
出席対象者 56／62名	出席率 90.32%
欠席者 9名(病欠者 0名)	前々回修正出席率 96.77%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

### 〈ニコボックス委員会〉

- 岡島 淳一君 ISO9001取得しました。  
小笠原良治君 本日発売の我々にはあまり関心のない若者対象のタウン誌T－1になぜかキリンラーメンが登場しました。ありがとうございます。  
新美 宗和君 今月、JCのじゃがいもとロータリーのゴルフ会と両方優勝する事ができました。ありがとうございました。  
新美 真司君 本日の卓話の講師村松さんと亀山さんを紹介致します。  
竹中 誠君 オイスカ中部日本研修センターがお世話になります。  
早退6件 合計 17,000円

### 〈45周年実行委員会〉

3月17日に慰靈祭を実行します。幹事さんから発表があったとおり12時から行いますので時間をお間違いないようにお願いします。慰靈祭実行委員会の簡単な打ち合わせを来週の例会直後に行います。又文書はお流します。当日は実行委員会がございますので早めに終わりたいと思います。

## 卓 話

### 「オイスカの国際協力」－スリランカ植林ツアー

小学5年生の末浪ちゃんは、ツアーアの皆にかわいがられ、植林ツアーア全体が明るくなりました。ポンタネガマ小中学校での植林後、保護者の作ってくれた軽食を食べた者が校舎より、外に出てきますと学校の生徒たちが集まってまいりました。そこで、日本で練習をしてまいりました『美しいスリランカ』をシンハリ語で末浪ちゃんが歌いだしました。そうするとポンタネガマ小中学校の生徒たちが静まり返り、感銘を受けたようでした。

その歌がきっかけとなり、スケジュールにない野外交流会が自然と始まりました。末浪ちゃんが歌い終えると、今度はポンタネガマ小中学校の生徒2名がスリランカの歌をそれぞれ披露してくれました。次に芸能担当の西野さんが音頭をとり、八田先生のピアニカの伴奏で『輪になって踊ろう』を日本人とスリランカの子供たちが一緒になって踊りました。踊りが終わってから持ってきた少しばかりの手農具とピアニカの贈呈が行われました。

そうすると校長先生が日本人たちに挨拶をしなさいと言ったようでした。子供たちが挨拶を始めました。私たちの靴のところまで頭を下げて手を合わせておじぎをするわけです。80名位の子供たちがそれぞれ日本人15名に交互におじぎをしました。これにはビックリすると同時に、恐縮してしまいました。日本でいえば最敬礼にあたるものと思われます。昨日よりホームステーをして日本人に対する親近感が高まり、外国人である私たちが僧侶に対する礼と同じ最高の挨拶を受けたわけです。これにはいたく感動してしまいました。以前にタミール人農夫にこの様な礼を一度受けたことがあります、そのときはイギリスの植民地政策だと今まで思ってまいりました。しかし、それは仏教に基づく最高の挨拶であることがわかりました。今回の植林ツアーアで長年の誤解が解ける気がしました。

私たちに対する礼は、日本人への信頼であり、日本への尊敬だと思います。この国の車のほとんどが日本車であり、その多くが中古車であります。トラックのボディーに日本語で書かれた文字をスリランカの人々が誇らしと言います。

この国は日本へのあこがれを持っているのだと思います。今回の植林ツアーアは、全員が感激し喜んで帰国いたしました。

先ほどご紹介にもありましたように私は、インド、フィリピン、タイの農村で8年間農業をやってきました。現場主義でオイスカは海外で仕事をやっています。よりよい村を作らないと大変な事態が途上国で発生するだろうということで、豊かな村作りということに力をいれてきたわけです。

途上国で私たちの真心の国際協力の最も大きな障害になるのが、貧困とかそういう問題ではなくて支配者の亡靈なのです。これが今だにいたづらするのです。植民地下で数100年間支配された人達というのはその間に支配者に都合のいい伝統と文化、社会構造



(財)オイスカ中部日本研修センター  
参事 村松 明 氏



(財) オイスカ 亀山 近幸 氏

というものが築かれてしまっている訳です。自立していくという時には、その伝統、文化が一番障害になる訳なのです。私たち日本人が一生懸命公私に一緒にやっていこうとやってもなかなかそれが通用しない。自分たちで体を動かせない、頭を使って行動に起こせない。結局支配者にとって一番都合のいい人間というのは…。危険な人間というのは民族の誇りを持っている人間です。頭がよくて行動力のある人間、こういう人たちは危険分子な訳です。結果200年ないし300年の支配の間にそういう人達はどんどん、どんどん淘汰していって結局その国には「イエスマン」が最終的に残っています。自ら行動を起こす、民族の誇りをもって自分で決定して、自分で行動するという人というのは殆どいなくなってしまったわけです。その中で国際協力を進めていこうとする時、そういう生き方そのものが大きな障害になってくるわけです。私もある国で頑張っている若い人達のところへ行って非常に苦労しているな、なかなか事がうまく進まないなと思っています。その中でジャイカの所長さんといろいろと話をしたら、「簡単だよ、支配者のやりかたを真似すれば物事はスムーズにいってしまう。しかし日本人としてはそれは出来ないだろ、日本人は基本的には非常に和を尊びやさしい。西洋人みたいな支配の仕方というのは非常に苦手とするし、それをやってもうまくいかないだろうし失敗するだろう。又そのやり方はオイスカさんにとっては、禁じ手だろうから止めた方がいい」従って、結局真正面から日本人として原住民の人たちと一緒に生きて、一所懸命苦労を味わいながら頑張っていくとという生き方でやってきております。

これらの取り組み方がいろいろなところから評価されてまいりました。国連の諮問機関として最高位のカテゴリー「ジェネナル」を頂いたり、ブラジルでの20世紀最後の最大のイベントといわれました地球サミットで、その翌年がオイスカが世界の中でただ一つ「地球サミット賞」を国連より頂いたという評価にもつながって来ていると思います。あくまでも私たちオイスカというのは現場主義でとにかくこつこつと一生懸命やっております。どうぞ今後とも宜しくご支援の程お願いします。ありがとうございました。

次回例会案内／3月10日（水）45周年記念式典リハーサル  
於 衣浦グランドホテル